

公立大学法人奈良県立医科大学 中期計画（案）

I 地域貢献＜教育関連＞

1 医療人の育成（医師関連） 医師派遣システムの適切な実行（（仮称）県立医大医師派遣センターの設立・運営）

「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、（仮称）県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」

◆ 評価指標

（仮称）県立医大医師派遣センターの設置

H25
（仮称）県立医大医師派遣センターの設置準備

H26～
（仮称）県立医大医師派遣センターの運営開始

（医学科）※県内就職率約60%を確保するための必要数：66名

※緊急医師確保修学資金による増13名含む

（現状） H24 51名	H25 51名	H26 54名	H27 57名	H28 60名	H29 63名	H30 66名
--------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

◆ 取組内容

- ・県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う（仮称）県立医大医師派遣センターの設置・運営
- ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援
- ・「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成

医師派遣システムの適切な実行（（仮称）県費奨学生配置センターの設置・運営）

「（仮称）県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。」

◆ 評価指標

（仮称）県費奨学生配置センターの設置

H25
（仮称）県費奨学生配置センターの設置準備

H26～
（仮称）県費奨学生配置センターの運営開始

最適な医師配置の実現（県内公立公的病院等からの要望に対応）

配置数（緊急医師確保枠、医師確保修学研修資金の義務履行者を主とする医師配置数 ※近大含む）

（現状） H24 6名	H25 8名	H26 15名	H27 17名	H28 22名	H29 29名	H30 40名
-------------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------

地域に貢献する医師の育成

育成数（緊急医師確保枠を主とする医師の育成（年13名））

（現状） H24 延べ13名	H25 延べ26名	H26 延べ39名	H27 延べ52名	H28 延べ65名	H29 延べ78名	H30 延べ86名
----------------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

◆ 取組内容

- ・県費奨学生の配置を行う（仮称）県費奨学生配置センターの設置・運営
- ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援（再掲：I-1）
- ・県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成

医療人の育成(看護師関連)

「(仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。」

◆ 評価指標

(看護学科)※県内就職率60%を確保するための必要数:54名

県内就職者数

(現状) H23 33名	H25 33名	H26 38名	H27 45名	H28 50名	H29 52名	H30 54名
--------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

◆ 取組内容

・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及び大学と附属病院の連携による看護学生の県内就職に向けた取組の推進

2 看護師の地域貢献

認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」

◆ 評価指標

認定看護師・専門看護師の確保

(現状) H24 23名	H25 25名	H26 27名	H27 29名	H28 31名	H29 33名	H30 35名
--------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

◆ 取組内容

- ・認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実
- ・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実
- ・病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携
- ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルラボの設置、地域へのオープン化

※CNS(Certified Nurse Specialist)・・・看護系大学院の修士課程において所定の単位を取得し、公益社団法人日本看護協会に認定を受けた、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師。

I 地域貢献<研究関連>

3 研究成果等の地域への還元

「住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。」

◆ 評価指標

外部有識者を含む評価委員会の設置・運営

H25
外部有識者を含む評価
委員会の設置

H26～
評価委員会の運営

講習会等の開催

H25～26
エビデンスの確立
・住居医学講座
・(仮称)大和漢方医学薬学センター
(研究テーマの設定、人材育成、
地域医療者への研修普及) 等

H27～
講習会等の開催
・研究成果による講習会等の実施

◆ 取組内容

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営
- ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営
- ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営
- ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化

4 健康増進の県民アプローチの充実

「市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。」

◆ 評価指標

県民の健康増進支援組織の設置・運営

H25
県民の健康増進支
援組織の設置検討

H26～
健康増進支援組織の設置・運営

◆ 取組内容

- ・県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営
- ・公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供
- ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元

※コホースタディ(研究)・・・分析疫学における手法の1つ。特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較することで、要因と疾病発生の関連を調べる観察的研究である。
 ※奈良県健康長寿コホースタディ・・・県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。(対象10,000名)
 ※MBT構想・・・奈良医大を中心としたまちづくり(MBT: Medicine -Based Town)による地域貢献
 1) 奈良医大を中心としたMBTを作ることによる直接的地域貢献
 例: 住居と医大をICTで結び、各種センサーで常時モニタリングを行い、患者の急変時の対応と健康維持のための研究に活用
 2) 奈良医大MBTを中心とした医療産業の振興 3) 奈良医大MBTモデルの県内・外への拡大

I 地域貢献<診療関連>

5 断らない救急医療体制の整備

「県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。」

◆ 評価指標

重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率

(現状) H23 85.7%	H25 87%	H26 89%	H27 91%	H28 93%	H29 95%	H30 100% に近づける
----------------------	------------	------------	------------	------------	------------	----------------------

県内救急搬送コーディネート機能の運用

H25 県内救急搬送コーディネート機能の検討	H26～ 県内救急搬送コーディネート機能の運用開始
---------------------------	------------------------------

◆ 取組内容

- ・重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援
- ・救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備
- ・高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成
- ・医師等救急医療従事者の負担軽減対策(補助員配置、サービス、手当等)への取組

6 周産期医療体制の強化

「総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。」

◆ 評価指標

母体県内搬送実績

(現状) H23 92.4%	H25 93%	H26 93%	H27 93%	H28 100% に近づける	H29 100% に近づける	H30 100% に近づける
----------------------	------------	------------	------------	----------------------	----------------------	----------------------

新生児県内搬送実績

(現状) H23 100%	H25 100%	H26 100%	H27 100%	H28 100%	H29 100%	H30 100%
---------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

H28 (仮称)中央手術棟オープン
GCU18床増床

新生児・母体それぞれに県内搬送コーディネート機能の運用

H25 県内搬送コーディネート機能の検討	H26 県内搬送コーディネート機能の運用開始
-------------------------	---------------------------

◆ 取組内容

- ・GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実
- ・施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネート機能の充実
- ・高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保

※GCU(Growing Care Unit)・・・新生児治療回復室。NICU(新生児特定集中治療室)退出児が入院する後方病床。

7 他の医療機関との連携強化

「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」

◆ 評価指標

地域医療連携パスの運用件数							
(現状) H23 137件	H25 140件	H26 150件	H27 165件	H28 185件	H29 200件	H30 200件	
紹介率							
(現状) H23 74.2%	H25 75%	H26 75%	H27 75%	H28 75%	H29 75%	H30 75%	
逆紹介率							
(現状) H23 42.1%	H25 43%	H26 48%	H27 53%	H28 56%	H29 58%	H30 60%	
中核的な緩和ケアセンター構想策定・稼働							
H25 中核的な緩和ケアセンター構想策定				H26～ 中核的な緩和ケアセンター本格稼働			

◆ 取組内容

- ・連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進
- ・各種地域医療連携パスの拡充、退院調整の効果的な運用等による地域医療連携の推進
- ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働
- ・地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置
- ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実

8 県内医療人への助言・指導

「県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献す

◆ 評価指標

研修会等の開催回数							
(現状) H23 2回	H25 3回	H26 4回	H27 4回	H28 4回	H29 4回	H30 4回	

◆ 取組内容

- ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7)
- ・臨床技能習得のためのスキルラボの設置・運営及び地域へのオープン化

II 教育

1 リベラルアーツ教育の実践

医の心をもった医療人の育成
医療経営に関する教育の確保

「カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。」

◆ 評価指標

一般教育検討委員会の設置運営と新カリキュラムの導入スケジュール

H25
・外部有識者を含む一般教育
検討委員会設置
・学生へのアンケートの実施
・他大学(外国の大学含む)カ
リキュラムの調査

H26
新カリキュラム再
構築(案)の策定

H27～
新カリキュラム導入

医師の理想像を理解し、医師になる強い自覚を持った学生の割合

(現状) H22 30.6%	H25 40%	H26 55%	H27 70%	H28 80%	H29 85%	H30 90%
----------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

看護師の理想像を理解し、看護師になる強い自覚を持った学生の割合

(現状) H22 33.2%	H25 40%	H26 55%	H27 70%	H28 80%	H29 85%	H30 90%
----------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営

◆ 取組内容

- ・一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築
- ・アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握
- ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置

2 教育内容の評価

「教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。」

◆ 評価指標

カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合

(医学科)

(現状) H22 約40%	H25 39%	H26 36%	H27 30%	H28 26%	H29 22%	H30 20%
---------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

(看護学科)

(現状) H22 約40%	H25 39%	H26 36%	H27 30%	H28 26%	H29 22%	H30 20%
---------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

H25～27
評価体制の構築検討

H28～

◆ 取組内容

- ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善
- ・教員の表彰制度の導入
- ・FD研修会の実施による教育能力の向上

※FD(Faculty Development)とは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称である。具体的には、
としては、新任教員のための研修会の開催、教員相互の授業参観の実施、センター等の設
置

などを挙げることもできる。(立部科学省ホームページより)

3 老朽・狭隘施設への対策

「新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。」

◆ 評価指標

新キャンパスオープンに向けたスケジュール

H25 基本構想 策定	→	H27 基本設計 着手	→	H30 建築工事 発注準備
-------------------	---	-------------------	---	---------------------

◆ 取組内容

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営

III 研究

1 研究の適切な成果評価

「研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設す

◆ 評価指標

外部有識者を含む評価委員会の設置・運営

H25 外部有識者を含む 評価委員会の設置	H26～ 評価委員会の運営
-----------------------------	------------------

◆ 取組内容

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)
- ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)

2 有能な研究者の獲得

「研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。」

◆ 評価指標

PubMed対象の英文学術論文数(累計)

(現状) H23 214件	H25 220件	H26 446件	H27 678件	H28 916件	H29 1,160件	H30 1,400件
---------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------------	---------------

基礎医学系教員育成数

(現状) H24 2名	H25 4名	H26 6名	H27 8名	H28 10名	H29 12名	H30 14名
-------------------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------

(研究医コース養成2名/年)

◆ 取組内容

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)
- ・基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実
- ・研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施
- ・女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援

3 健康・予防医療等研究範囲の拡大

「MBT構想(*1)や奈良県健康長寿コホースタディ(*2)等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。」

用語説明(再掲: I-4)

(*1) MBT構想・・・奈良医大を中心としたまちづくり(MBT: Medicine -Based Town)による地域貢献

1) 奈良医大を中心としたMBTを作ることによる直接的地域貢献

例: 住居と医大をICTで結び、各種センサーで常時モニタリングを行い、患者の急変時の対応と健康維持のための研究に活用

2) 奈良医大MBTを中心とした医療産業の振興 3) 奈良医大MBTモデルの県内・外への拡大

(*2) ※コホースタディ(研究)・・・分析疫学における手法の1つ。特定の要因に曝露した集団と曝露していない集団を一定期間追跡し、研究対象となる疾病の発生率を比較することで、要因と疾病発生に関連を調べる観察的研究である。

※奈良県健康長寿コホースタディ・・・県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。

(対象10,000名の構想)

◆ 評価指標

H25～26
リビングサイエンスの新たな研究テーマの検討と既存事業の推進

H27～
新たな研究テーマ事業の実施、県内への普及検討

※新たな研究テーマ : MBT構想、生薬、奈良県健康長寿コホースタディ、スポーツ医学など

◆ 取組内容

・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)

・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)

・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホースタディ)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)

4 研究環境の改善

「新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。」(再掲: II-3)

◆ 評価指標

新キャンパスオープンに向けたスケジュール

H25
基本構想
策定



H27
基本設計
着手



H30
建築工事
発注準備

◆ 取組内容

・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲: II-3)

・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲: II-3)

IV 診療

1 医師・看護師等の離職防止と人材確保

「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。」

◆ 評価指標

女性医師数

(現状) H24 23名	H25 25名	H26 27名	H27 29名	H28 31名	H29 33名	H30 35名
--------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

※女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)(H24. 4現)

看護師の離職率

(現状) H23 7.49%	H25 7.0%	H26 6.5%	H27 6.0%	H28 5.5%	H29 5.0%	H30 5.0%
----------------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

H25
・就業規則の見直し
・ワークライフバランス検討
委員会の設置

H26～
ワークライフバランス検討委員会の運営

◆ 取組内容

- ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営
- ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し

2 がん拠点病院としての機能の充実

「県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。」

◆ 評価指標

がん治療件数(放射線治療、化学療法の計)

(現状) H23 30,825名	H25 32,000名	H26 32,700名	H27 33,400名	H28 34,100名	H29 34,700名	H30 35,000名
------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

H28 (仮称)中央手術棟オープン
(放射線治療機器整備)

◆ 取組内容

- ・高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保
- ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7)
- ・がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化
- ・がん登録の推進

3 治療成績の一層の向上

「(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。」

◆ 評価指標

H25 (仮称)診療内容向上 委員会の設置	H26～ (仮称)診療内容向上委員会の運用、実績報告
H25 臨床指標の設定・公 表	H26以降 臨床指標の公表継続 数値の改善

◆ 取組内容

- ・診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営
- ・臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新

4 患者満足の一層の向上

「医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。」

◆ 評価指標

診療内容に満足している人の割合						
(現状) H23 約90%	H25 90%以上	H26 90%以上	H27 90%以上	H28 90%以上	H29 90%以上	H30 90%以上
診療の待ち時間が長いと感じる人の割合						
(現状) H23 35.3%	H25 35%	H26 34%	H27 33%	H28 32%	H29 31%	H30 30%
H25 ホスピタリティマインド向 上委員会の設置		H26～ ホスピタリティマインド向上委員会の運用・実施				
ホスピタリティマインド醸成研修の実施						

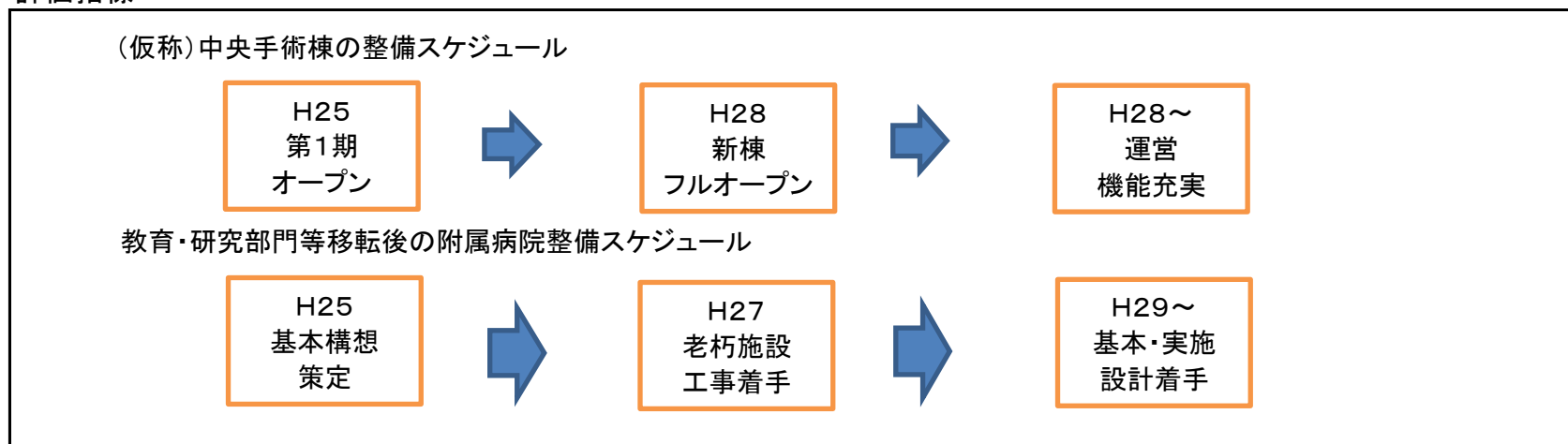
◆ 取組内容

- ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営
- ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施
- ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり
- ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映

5 老朽・狭隘施設への対策

「附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。」

◆ 評価指標



◆ 取組内容

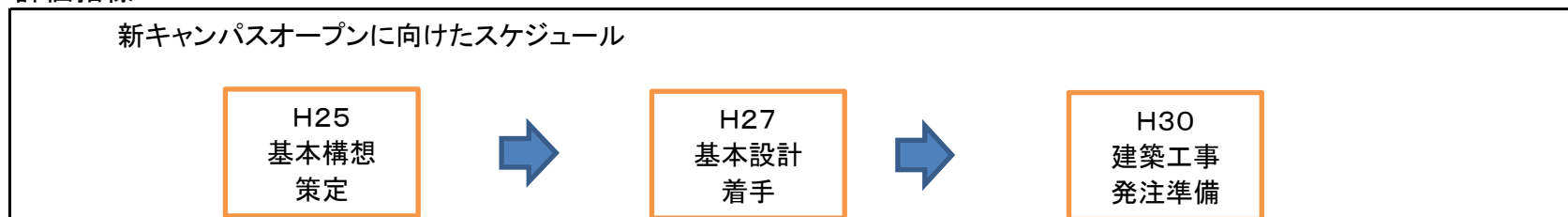
- ・(仮称)中央手術棟の完成と運営
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)
- ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進
- ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手

V まちづくり

1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備

「平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。」

◆ 評価指標



◆ 取組内容

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)

2 地域に開かれたキャンパスづくり

「新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。」

◆ 評価指標

新キャンパスオープンに向けたスケジュール

H25
基本構想
策定



H27
基本設計
着手



H30
建築工事
発注準備

◆ 取組内容

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3)
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)

3 教育・研究部門等移転後の跡地活用

「現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。」

◆ 評価指標

教育・研究部門等移転後の附属病院整備スケジュール

H25
基本構想
策定



H27
老朽施設
工事着手



H29～
基本・実施
設計着手

◆ 取組内容

- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)
- ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:Ⅳ-5)
- ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:Ⅳ-5)

4 移転を契機とした研究分野での地域貢献

「新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。」

◆ 評価指標

外部有識者を含む評価委員会の設置・運営

H25
外部有識者を含む評価
委員会の設置

H26～
評価委員会の運営

講習会等の開催

H25～26
エビデンスの確立
・住居医学講座
・(仮称)大和漢方医学薬学センター
(研究テーマの設定、人材育
成、地域医療者への研修普及) 等

H27～
講習会等の開催
・研究成果による講習会等の実施

◆ 取組内容

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)
- ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)
- ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3)
- ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)

5 健康づくり・予防医療等への貢献

「MBT構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。」(再掲: III-3)

◆ 評価指標

H25～26
リビングサイエンスの新た
な研究テーマの検討と既
存事業の推進

H27～
新たな研究テーマ事業の実施、県内への普及検討

※新たな研究テーマ : MBT構想、生薬、奈良県健康長寿コホートスタディ、スポーツ医学など

◆ 取組内容

- ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)
- ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)
- ・奈良県健康長寿コホートスタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)

VI 法人運営

1 ガバナンス体制の充実強化

「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」

◆ 評価指標

6年間
常に評価結果を高い水準で維持

◆ 取組内容

- ・全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成
- ・中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施
- ・法人の取組みの情報発信
- ・職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施

※SD(Staff Development)・・・事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組。(文部科学省ホームページより)

2 ワークライフバランスの充実強化

「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。」

◆ 評価指標

教職員 1人あたりの年次有給休暇取得日数

医師の場合

(現状) H22 3.0日	H25 3.5日	H26 4日	H27 4.5日	H28 5日	H29 5.5日	H30 6日
---------------------	-------------	-----------	-------------	-----------	-------------	-----------

看護師の場合

(現状) H22 4.1日	H25 4.5日	H26 5日	H27 5.5日	H28 6日	H29 7日	H30 8日
---------------------	-------------	-----------	-------------	-----------	-----------	-----------

H25
・就業規則の見直し
・ワークライフバランス検討委員会の設置

H26～
ワークライフバランス検討委員会の運営

◆ 取組内容

- ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1)
- ・職員の勤務環境や満足度の把握
- ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1)

3 同窓会・歴代卒業生との連携

「同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。」

◆ 評価指標

寄附件数						
(現状) H23 876件	H25 900件	H26 920件	H27 940件	H28 960件	H29 980件	H30 1,000件

◆ 取組内容

・医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進

4 繰越欠損金の解消

「県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。」

◆ 評価指標

繰越欠損金の額						
(現状) H23 9.6億円	H25 6.0億円	H26 4.8億円	H27 3.6億円	H28 2.4億円	H29 1.2億円	H30 0億円

◆ 取組内容

・経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有
 ・診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施
 ・医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保

VII 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画

別紙参照

VIII 短期借入金の限度額

30億円

IX 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

X 剰余金の使途

地方独立行政法人法第40条第3項に規定する剰余金の使途は、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善とする。

XI 県の規則で定める業務運営事項

1 施設・設備に関する事項

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
・(仮称)中央手術棟整備	総額 23,049	施設整備費補助金 (2,892)
・(仮称)中央手術棟関連アメニティ整備		長期借入金 (17,400)
・附属病院医療機器整備		自己収入 (2,757)
・附属病院患者アメニティ向上整備		
・大学及び附属病院各所施設改修		
・附属病院医療情報システム更新		

注)施設・設備の内容、金額については見込みであり、各事業年度の予算編成過程において、老朽化等を勘案した施設・設備の改修の追加や整備内容等の見直しなどにより変動する。

注)新キャンパスへの教育・研究部門等の移転、老朽化した診療関連施設の改築及び教育・研究部門等移転後の附属病院の整備については、整備内容、事業費、施工区分等が決定した段階で、中期計画予算へ反映させる。

2 積立金の使途

なし

3 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

(別紙)

予 算

平成25年度～平成30年度 予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	12,048
中期目標達成促進補助金	2,667
施設整備費補助金	2,892
自己収入	196,781
授業料、入学金及び検定料収入等	4,831
附属病院収入	188,056
諸収入	3,894
受託研究等収入及び寄附金収入等	5,646
長期借入金収入	17,400
計	237,434
支出	
業務費	199,576
教育研究経費	17,260
診療経費	174,803
一般管理費	7,513
施設整備費	23,049
受託研究等経費及び寄附金事業費等	3,652
長期借入金償還金	10,227
計	236,504

注)中期目標Ⅳ-4「繰越欠損金の解消」を達成するため、収入が支出を930百万円上回る予算を計上している。

【人件費の見積】

中期目標期間中 総額 90,251百万円を支出する。(退職手当を除く。)

注)退職手当については、公立大学法人奈良県立医科大学職員退職手当規程に基づいて支給する。また、地方独立行政法人法第52条第2項に規定する職員及びその後任補充者(以下、「承継職員等」という。)に係る退職手当については、運営費交付金を財源とし、承継職員等以外の職員に係る退職手当については 退職給付債務の引当を行う。

【運営費交付金の算定ルール】

県から交付される運営費交付金は、下記の算定基準等に基づき、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金は、県の予算編成過程において、基準を適用

(1)大学

①教育研究の推進

医科大学に係る平成24年度の普通交付税の基準財政需要額算定方法等に準じて算定

②退職手当

承継職員等に係る退職手当のうち県職員としての勤務期間相当分

注)退職手当支払い見込みにより交付し、翌々年度の運営費交付金で精算する。

(2)附属病院

①退職手当

承継職員等に係る退職手当のうち県職員としての勤務期間相当分

注)退職手当支払い見込みにより交付し、翌々年度の運営費交付金で精算する。

②法人化後の県債元利償還金

法人化後の施設・設備整備にかかる長期借入金の元利償還額の一定割合

(3)調整項目

①収支計画上で法人が負担可能な額の控除

法人化前の附属病院の施設・設備整備に係る県債の元利償還額2/3相当額

②寄附金との調整

ふるさと奈良県応援寄附金のうち、県立医科大学分として寄附された額

収支計画

平成25年度～平成30年度 収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	217,340
經常費用	217,340
業務費	200,140
教育研究経費	7,097
診療経費	98,258
受託研究費等	1,665
役員人件費	512
教員人件費	22,205
職員人件費	70,403
一般管理費	2,368
財務費用	1,318
雑損	0
減価償却費	13,514
臨時損失	0
収入の部	218,302
經常収益	218,302
運営費交付金収益	12,048
授業料収益	3,646
入学金収益	696
検定料等収益	248
附属病院収益	188,056
受託研究等収益	2,234
補助金等収益	4,301
寄附金収益	3,022
財務収益	0
雑益	2,259
資産見返運営費交付金等戻入	295
資産見返補助金等戻入	1,013
資産見返寄附金等戻入	408
資産見返物品受贈額等戻入	76
臨時利益	0
純利益	962
総利益	962

資金計画

平成25年度～平成30年度 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	238,933
業務活動による支出	202,503
投資活動による支出	23,769
財務活動による支出	11,731
次期中期目標期間への繰越金	930
資金収入	238,933
業務活動による収入	217,141
運営費交付金による収入	12,048
授業料、入学金及び検定料等による収入	4,831
附属病院収入	188,056
受託研究等収入	2,234
補助金等収入	4,301
寄附金等収入	3,412
その他の収入	2,259
投資活動による収入	2,892
財務活動による収入	18,900
前期中期目標期間からの繰越金	0

注)財務活動による支出・収入には、資金不足に対応する短期借入金の借入予定額、返済予定額それぞれ 1,500百万円及び短期借入金にかかる利息支払予定額 4百万円を計上している。